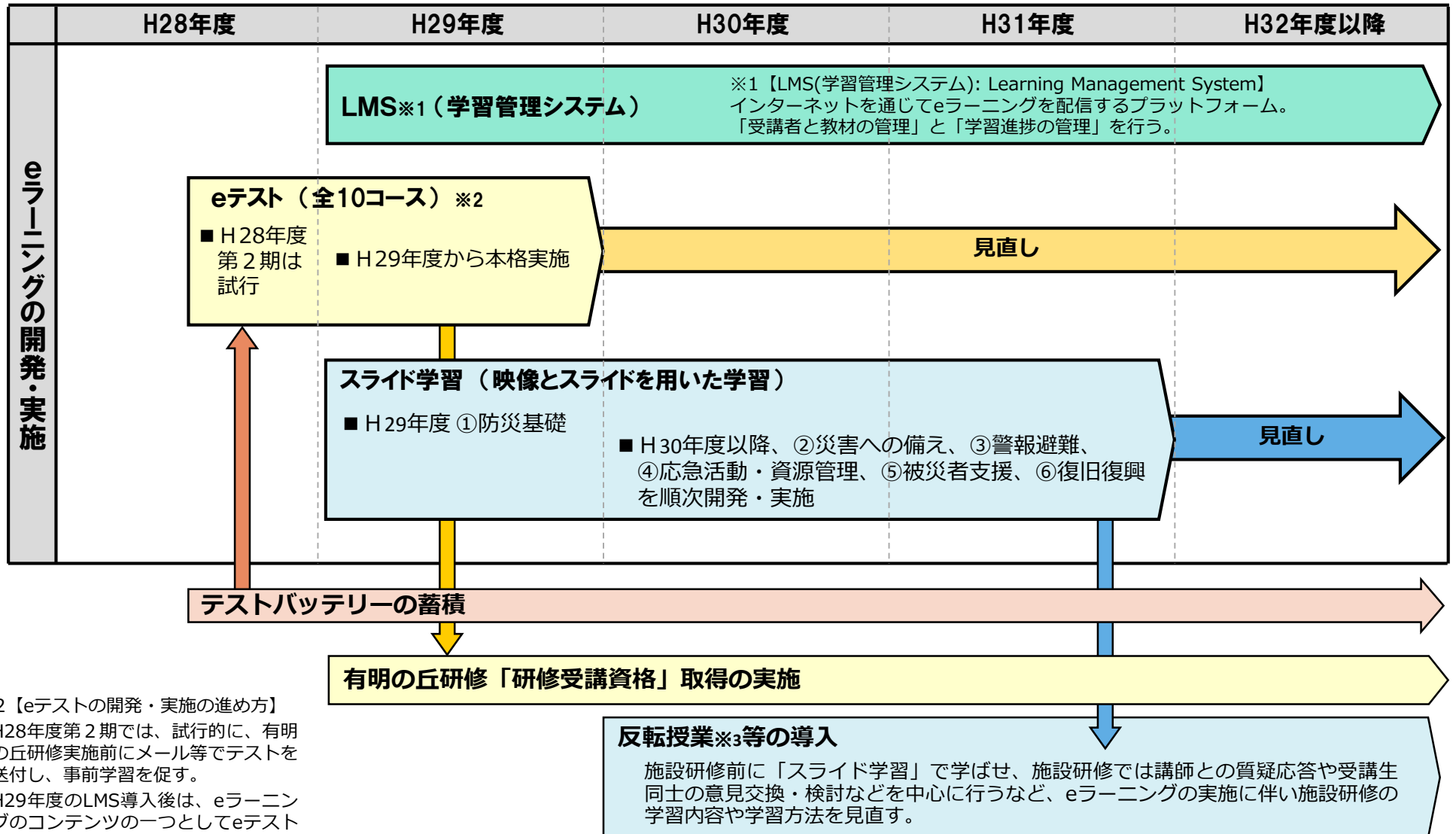


eラーニングの開発・実施スケジュール(案)

資料3-2



※2 【eテストの開発・実施の進め方】

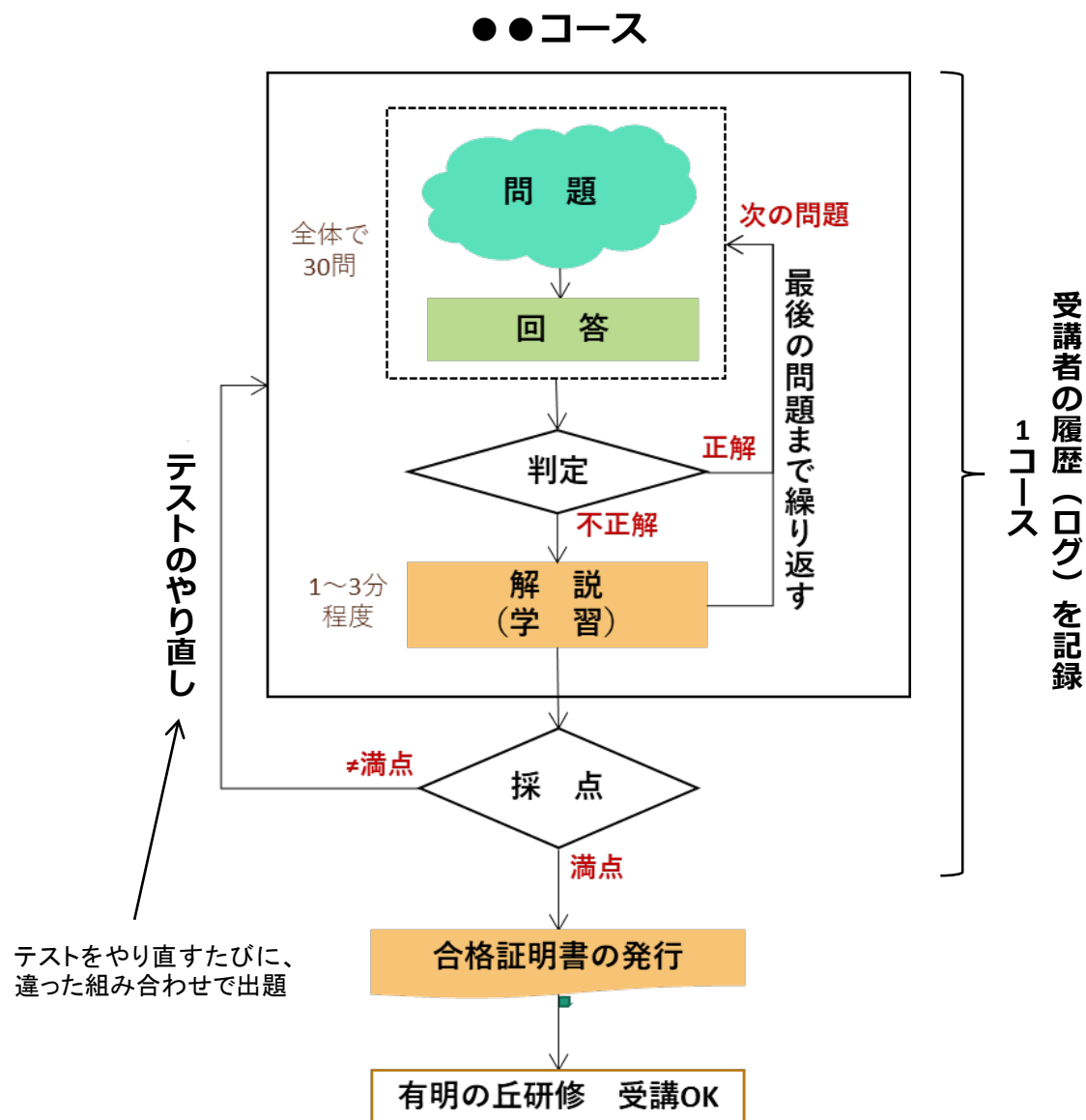
- H28年度第2期では、試行的に、有明の丘研修実施前にメール等でテストを送付し、事前学習を促す。
- H29年度のLMS導入後は、eラーニングのコンテンツの一つとしてeテストの提供を開始。併せて、有明の丘研修の受講前に、受講するコースのeテストで満点を取ることを義務付ける「研修受講資格取得」を開始。

※3 【反転授業】

反転授業は一般に「説明型の講義など基本的な学習を宿題として授業前に行い、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う教育方法」を指す。反転授業では、従来の授業相当分の学習を授業前に行うことで、知識の定着や応用力の育成を重視した対面授業の設計が可能となる。

(参考) eテストの流れ

- テストバッテリーを基に、コースごとにテストを提供
- コースの問題数:30問
 - 5問/単元×6単元程度
- 1問ごとに回答・判定し、不正解の場合は解説で学ぶ
 - 多くのテストを行うことで、最低限理解しておくべき基礎的な知識を身につける。
- テストをやり直すたびに違った組み合わせで出題
- 受講者すべてのログを記録・管理
- テストで満点をとったものに対して合格証明書を発行し、有明の丘研修の「研修受講資格」とする



(参考) スライド学習の流れ

- コースごとに、eラーニング用の講義コンテンツ(映像・スライド等)を作成し、提供
 - 有明の丘研修の単元(座学)をベースに作成
- 1単元の受講時間:15分程度
 - 学習目標ごとに3~5分
- テストバッテリーを基に、単元ごとにテストを実施し、不正解の場合は再度受講を促す
- 単元の問題数:5問
- テストをやり直すたびに違った組み合わせで出題
- 受講者すべてのログを記録・管理
- コースの全単元のテストに合格した者に対し、当該コースの「受講証明書」を発行

